

会社名: コダック株式会社
担当部門: ドキュメントイメージング アンド ビジネスプロセスサービス事業部
所在地: 東京都千代田区神田駿河台 2-9 研究社ビル (〒101-0062)
電話番号: 03(5577)1380 FAX: 03(5577)1333

緊急連絡先: (財)日本中毒情報センター【中毒 110 番】
(事故に伴い急性中毒の恐れのある場合に限る)
9時から17時まで: 0990(52)9899 (ダイヤル Q2 有料)
又はダイヤル Q2 を利用できない医療施設の場合は 0298(51)9999
これ以外の時間帯: 0990(50)2499 (ダイヤル Q2 有料)
又はダイヤル Q2 を利用できない医療施設の場合は 06(6878)1232

MSDS No.000012742/F/USA/JP

承認日: 1999年5月31日

作成日: 2002年4月1日

1 | 製品名

コダック ドキュメント プリンタ 1500/2500 インクカートリッジ

CAT No.182 8813

CAT No.886 1452

原産国: アメリカ合衆国

2 | 物質の特定

混合物

成分	重量%	CAS No.	PRTR 政令番号
水	75-85	7732-18-5	
グリセリン	10-15	56-81-5	
アゾ染料	<5	特許薬	

3 | 危険・有害性の分類

危険 : 通常取り扱いでは、危険性は少ないと予想される。

4 | 応急措置

- 吸入した場合 : 症状が出たら、空気の新鮮な場所へ移動する。症状に応じて手当てを行う。呼吸器官に炎症を起こす蒸気あるいはガスが高熱処理で放出される場合は、空気の深淺な場所へ移動する。症状が続くならば、医療手当てを受ける。
- 眼に入った場合 : 直ちに清浄な水で15分以上洗浄する。症状が出たら医療手当てを受ける。
- 皮膚に付着した場合 : 直ちに汚染した衣服、靴を脱ぎ石鹼と大量の水で洗う。症状が出たら、医療手当てを受ける。汚染した衣服は再利用の前に洗う。
- 誤飲した場合 : 必ず専門家の指示に従い、吐き出させること。意識を失った人には、なにも飲ませない。速やかに内科医または毒物管理センターに連絡する。

5 | 火災時の措置

消火手段 : 散水、二酸化炭素(CO₂)、粉末消火剤。
 火災時の特別対応手段 : 呼吸用保護具と保護衣を着用する。
 製品の燃焼の危険性 : 一酸化炭素、二酸化炭素
 異常火災/爆発の危険性 : なし

6 | 漏出時の措置

多量の水と共に下水に流す。残留汚物を取り除くために表面を清掃する。

7 | 取扱い及び保管上の注意

取扱い : 眼、皮膚、衣服への付着を避ける。取扱後はよく洗う。
 火災や爆発の防止 : 酸化物質に近づけない。
 保管 : 室温で、密栓して保管する。

8 | 暴露防止措置

許容濃度 : ACGIH (T₁₀)
 グリセリン : 10mg/m³ TWA (霧状)
 OSHA (PEL-1971 Table Z-1 Values)
 グリセリン : 5mg/m³ TWA (呼吸分留)
 換気 : 一般的に換気の良い場所で取扱う。(10 air changes/時間)。換気率は環境に合わせる事。
 呼吸器の保護 : 必要なし。ホルムアルデヒドが、呼吸器系の保護を必要とする濃度で放出した場合には、ホルムアルデヒドに対する保護用としてNIOSHに認定されたカートリッジあるいはキャニスター付きの顔全体を覆うフェイスピース、フードまたはヘルメット付きのCタイプ保護用呼吸器を着用すること。
 眼の保護 : 産業衛生学上、眼への付着を最小にする。側板付き眼鏡(ゴーグル)を着用。
 皮膚の保護 : 長時間、または何度も操作する場合、皮膚への付着の可能性があるので、不浸透性の手袋を着用する。
 浄化する設備 : 洗眼機、身体洗浄の設備(安全シャワー)を推奨する。

9 | 物理・化学特性

(濃縮液)
 外観 : 液体
 色 : 黒
 臭気 : 若干
 沸点 : >97°C
 蒸気圧 : 24mbar (18mmHg) / 20°C
 蒸気密度(空気 = 1) : 0.6
 揮発留分(重量) : 75-85%
 比重(水 = 1) : データなし
 水溶性 : 25°C (完全)
 pH : 8.6
 引火点 : >65°C
 融解点 : -5°C

10 危険性情報 (安定性・反応性)

安定性 : 同様の構造のグループを含む物質は、通常安定している。
 不適合物質 : 強酸化剤、強酸性、強い還元剤
 危険重合物質 : 発生しない

11 有害性情報 (暴露の影響)

ヒドロキノン含有。ラットおよびマウスに対する経口摂取テスト結果から、EU ではヒドロキノン は カテゴリー3 (適当な動物試験からある程度の証拠はあるが、カテゴリー2に入れるには不十分な物質) に分類される。カテゴリー3とは、1%濃度以上でリスク段階 R40 (元に戻らない影響がある) を引き起こす可能性を持つクラスである。

IRAC では、ヒドロキノン をグループ 3 (人に対する発がん性については、分類出来ない) に分類している。危険を回避するため、妊婦や授乳中の婦人には近づけないよう管理することが望ましい。

吸入 : この物質に含まれる成分の毒物学上の特性は全てが調査済でなく、またその取り扱いおよび使用に危険が伴うこともある。

眼 : 通常使用なら危険性は少ない。

皮膚 : 通常使用なら危険性は少ない。

誤飲 : 危険性は少ないと予想される。

12 環境影響情報

(この項は、輸送中の不慮の事故などにより発生した漏出時の対応について述べるもので、下水道などに排出するための情報ではありません。)

本品の主成分に関するデータに基づいて本品の環境へ及ぼす影響を推測していますが、実際には試していません。以下の特性は、予測に基づいたものです。

予測される特性: BOD は中庸水質系において酸素の減少を発生させる可能性がある。水中生物への影響は小さい。二次廃棄物処理の微生物代謝への影響は小さい。
 植物の発芽や初期の成長段階及び実生に影響を及ぼす可能性は中庸。
 環境内で長く残存する可能性は低い。
 大量の水で希釈すれば二次廃棄物処理によって放たれても環境に対する影響は少ないと予測される。

13 廃棄時の注意

特別管理産業廃棄物には該当しない。

自社で廃水処理設備を所有していない場合には、全量を回収した上で、専門の廃液処理業者に委託して処理する。

廃棄時に該当する法規

化学物質管理促進法 (PRTR 法)

廃棄物処理法 : 産業廃棄物 (廃アルカリ)

水質汚濁防止法 : 生活環境項目

下水道法 : 下水の排除の制限

14 | 輸送上の注意

Air Transportation	
Class	: -----
UN-No.	: -----
Proper Shipping Name	: -----
Subsidiary risk	: -----
Packaging group	: -----
Passenger aircraft	: -----
Cargo aircraft only	: -----
Further information	: -----

15 | 適用法令

下記参照。

化学物質管理促進法 (PRTR 法)	: -----
毒物劇物取締法 (毒劇法)	: -----
労働安全衛生法 (安衛法)	: -----
消防法危険物分類 (消防法)	: -----

発がん物質分類 (含有率 0.1%以上含むもの)

IARC	: なし
ACGIH	: なし
NTP	: なし
OSHA	: なし

16 | その他

危険・有害性の評価は必ずしも十分ではないので、上記の内容は補足の情報と見なし、取り扱いには十分注意して下さい。